

祠曹雜識

五十六

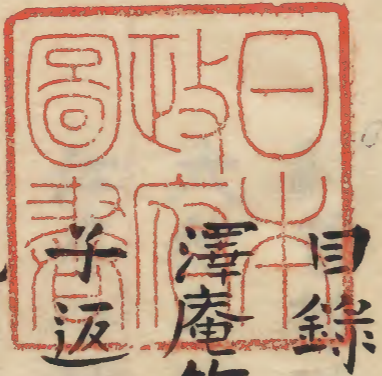
和書門類		二二八八七號	函	二	架	一	冊	七
------	--	--------	---	---	---	---	---	---

內閣文庫		和書類	二二八八七號	函	二	架	一	冊	七
------	--	-----	--------	---	---	---	---	---	---

(六五才)

內閣文庫		番號	和 22887
冊數		72 (56)	
函號		212	302





目錄

澤庵等三僧配流 寺社役御城継上下

子返 甲賀士取扱 寛政御清御定

尾州建中寺 先祖拜領御紋服

参州大濱古御判物 延壽王院御連衆

禁託宣 内寄合停白洲披露

祠曹雜識

卷五十六

參照大藏古略... 實如... 甲賀士... 三... 御... 御...

同書雜識卷五十六

明治十五年購求

大德寺ノ僧玉室澤庵江月三人法式ノ爭論有之

江戸へ被召呼寺社奉行所ニテ裁判有之三人共

ニ非分ニ相究先澤庵被召出此節之爭論越度有

之ニ付羽ノ最上へ配流被仰付候仕廻方モ候

ハ、相仕廻其首尾申出候様被仰渡候へハ出家

ハ常住相仕廻居候由申候ニ付直ニ最上へ被遣

候引次玉室被召出澤庵同前被仰渡候處是又同

様ノ答申ニ付奥州城之上へ被遣候江月ヲモ被

召出右同断被仰渡候へハ个様相成候テモ御憐

愍ヲ被加難有仕合奉存候仕回次第可申上卜退
出イ夕シ其後程過候テモ未相仕回由ニテ終ニ
配所ニ不趣内三年ニ皆今御赦免被仰付候由夫
ニ付落書ニ五月雨ニ澤邊ノ庵モ玉ノ室モ流レ
テ残ル濁江ノ月トイ夕シ候由 後水尾院様ノ
御製トモ間及事ニ候或年於江戸御殿山邊馬乘
ヲ御老中方御見分有之節其内一人上手有之御
尋被成候處鞍上無人鞍下無馬ト申乗形之由麻
生之出家有之右之指南以後僧ヨリ習得候由申
上ニ付右ノ僧于今被居候哉尋候へト被仰渡差

越尋候へハ澤庵ト申僧之由右之段
大猷院様被間名 御城へ澤庵被名出候折節御
卧居被遊候付 御前へ不罷出直ニ引返候ヲ御
奏者ヨリ被留候へハ上様ニハ御卧居被遊候
ニハサツトシ夕僧ニ而候得共佛衣ヲ著シ罷在
候へハ御横ニ被遊御座候ニハ御目見難仕由申
候其段被間名尤之由 上意ニテ御容御改御逢
被遊候而段今及御問答入氣ニ付東海寺御建立
住職被 仰付候最上へ配流之節草菴アリ春雨
菴卜額掛被置候最上ノ城主ヨリ菴室入用ニ候

八、取崩御遣可被下旨被仰間候へハ彼菴ハ面
白住ナシ春雨菴ト名付置候間御取寄被下候様
被申不残相届寺中へ取立春雨庵ト脇寺之寺号
之由東海寺澤菴ノ墓アリ一圓相ノ石ナリ隱元
禪師江府へ下ラレ候節コレヲ被見是亦多ク
ナト被申候トイフ此事薩州ノ隱士抄録三曉談
ニ見ユ按スルニ寛永六年己巳七月廿五日大徳
寺ノ僧澤庵羽州上山土岐山城守頼行玉室奥州
棚倉内藤豊前守信照ノ由東武實録等ニ出且現
今上山ニ春雨菴ノ遺趾ヲ存シ土岐家ニ多ク其

遺墨ヲ傳ルヲ證トスへシ抑二百年前ニハカ、
ルメテタキ公事モアリケルニ後世僧侶ノ訟度
ニ坐スル者凡俗ニ劣レルヲ淺猿キ次第ナラヌ
ヤ

松平右京亮申合ニ寺社役ハ前六ヨリ御城へ
罷出候節繼上下著候仕來ニテ既備中殿先代寺
社勤役中并込勤役中寛政年中之頃迄右之通
ニ有之候處其後何トナク留守居役等之服ニ相
泥ニ候哉當時ハ麻上下ニ而罷出候間一同申談
之上以來已前之通繼上下ニ而差出候様可致候